



地域とともにある

勢いのある学校

No. 7 (R2. 6. 22発行) 文責 校長 福田雅也

今後の授業時数確保等について

先週号は今後の学校行事等についてお知らせしましたが、今週号は、今後の授業時数確保等の展望についてお知らせします。まずは、下の表をご覧ください。

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	
各教科の 授業時数	国語	306	315	245	245	175	175
	社会			70	90	100	105
	算数	136	175	175	175	175	175
	理科			90	105	105	105
	生活	102	105				
	音楽	68	70	60	60	50	50
	図画工作	68	70	60	60	50	50
	家庭 体育					60	55
	外国語	102	105	105	105	90	90
特別の教科である道徳 の授業時数	34	35	35	35	35	35	
外国語活動の授業時数			35	35			
総合的な学習の時間 の授業時数			70	70	70	70	
特別活動の授業時数	34	35	35	35	35	35	
総授業時数	850	910	980	1015	1015	1015	

少し見にくくて申し訳ありませんが、この表は小学校の標準授業時数の表です。標準授業時数とは、文部科学省が定めているもので、各教科等は、少なくともこの授業時数以上の授業を行わなくてはならないこととなります。ただし、本校は「教育課程特例校」に指定されているため、この表とは異なる部分があり、英語科が特設されています。1・2年生はその分、他の小学校より総標準授業時数が34～35時間多くなっています。また、3・4年生は英語に35時間充てるため、総合的な学習の時間の時数を35時間減じています。

4月からの約二か月の休校を受けて、いろいろなところで授業時数が足りないと呼ばれているのは、この表の時数に対してなのです。もちろん、学習内容もこの時数に合わせて編成され、年間指導計画も作られています。時数が足りないということで、学習内容も終わらない可能性が心配されているのです。

それでは、本校として今後どのように対応していく予定なのかを説明します。

まず、一番目は夏季休業期間の短縮です。すでにお知らせしましたように夏季休業期間を8月6日～19日の約2週間にしたことで、約4週間（一か月）の授業時数を確保することができます。

次に、「行事」等の中止や見直しです。上の表には入っていませんが、学校の授業には「行事」「特別活動（児童会活動・クラブ活動）」という枠があります。これらには、標準授業時数が示されていない部分があり、「行事」で代表的なものは、入学式や卒業式、そして運動会や学習発表会等です。それらの中止や見直しと休校期間中に実施しなかった行事等、そして行事等の中止によって、欠時の部分に授業が可能になることの合計で、約36時間（一週間）の授業時数がうまれます。

三つ目は、予備時数を使うことです。この部分が保護者の方々にはわかりにくい部分かと思えます。通常の年度であれば、上の表の標準時数に加え、かなり余裕を持たせた時数で計画が立てられています。昨年度の本校の計画でいうと、少ない学年でも50時間、多い学年は100時間ほどの予備時数が設定されていたのです。これらを標準時数の中に取り込むことで、少ない学年でも1.5週間、多い学年は3週間近くの授業時数を確保することができます。

最後に、今回特別に、5月からの休校期間中に行った登校日の授業数も実質的な授業数として加えることができることになっています。規定があるので、単純計算はできないものの、6回の登校日に3時間の授業を行っているので、約3日分の授業時数をカウントすることができます。

これらをトータルすると、現段階では標準時数を上回る学年も複数あり、残りの学年も、どうにか20時間程度の不足に収めることができます。

加えて、先週号でもお知らせしておりましたように、20時間ほど使っていた学習発表会の練習時間を通常の授業に充てることにしています。

これらすべての取組により、現段階ではどうにか標準授業時数に近い授業時数の確保と、学習内容を終えることができるという見通しが持てる状況となっております。

しかし、余裕はほとんどない状態ですので、厳しい状況であることは間違いありません。また、今後の状況によっては、さらに厳しい状況になることも視野に入れておかなければなりません。

今後、学校としても精一杯努力していきますが、このような状況であることをご理解いただき、ご支援・ご協力をどうかよろしくお願いいたします。
【今回は文字が小さくなってしまったため、ふりがなは付けておりません。すみません。】